

報道関係各位

2002年10月11日

博報堂 広報室

## 10～60代のブロードバンド生活者 約1万人に調査

### 「使い放題」「常時接続」がもたらす『インターネットの家電化』

- ・ブロードバンドは「ストレスフリー・インターネット」
- ・ブロードバンドの使い方3つのキーワード  
「なんでも検索マシーン」「ダブル・スクリーン生活」「リビング・ネット生活」

博報堂では、ブロードバンドが生活者に何をもたらしたかを把握するため、本年8月、10～60代のブロードバンドユーザー、約1万人（有効回答 9917名）を対象とした「ブロードバンド生活者の実態調査」を実施いたしました。このたびその速報データがまとまりましたので、ご報告申し上げます。

これによると、「ブロードバンド生活者」はブロードバンド環境の良さを「ストレスフリー・インターネット」、すなわち「使い放題」で「つながっぱなしにできる」「ダウンロードが短時間」など、ストレスのないインターネット環境として評価していました。

また、ブロードバンドを導入したことにより、「何でもすぐに検索する」ようになり、インターネットを、日々の情報検索やコミュニケーションの必需品、いわば情報生活における「ライフライン」として活用していました。そして、これらブロードバンド生活者の特徴として、テレビとインターネットを同時活用する「ダブル・スクリーン生活者」や家族中で回線を共有する「リビング・ネット生活者」といった層が増えているなど、インターネットが家庭生活における必需品、すなわち、「家電化」していることが明らかになりました。

一方で、ブロードバンド化後の新サービスとして期待されている「短編映画の配信」や「インターネット放送局」などの利用経験者は多くはなく、ブロードバンド化によるインターネットサービスの利用方法はまだ大きく変化してはいませんでした。

詳細データにつきましては、次ページ以降にご紹介いたしております。

#### < 調査結果トピックス >

- ・「ブロードバンドにして良かった」と感じている人は99.7%とほぼ全員、ブロードバンドにして、良かった点...「定額料金で使い放題：82.1%」がトップ
- ・ブロードバンドにして変わった生活「知りたいことを気軽にインターネットで検索：70.0%」ブロードバンド生活者のインターネット接続時間は平均1週間に11.3時間。
- ・テレビを見ながらその情報をインターネットで検索する人：70.2%
- ・家族でインターネット回線を共有している人：68.3%
- ・インターネットを使った放送型サービスの経験者はまだ多くない

本件に関するお問い合わせ

博報堂 広報室  
研究開発局

宮川・寺島  
山下・日高

Tel : 03-5446-6161  
Tel : 03-5446-6482

## 調査データ

### < 調査概要 >

調査時期：2002年8月

調査方法：全国インターネット調査

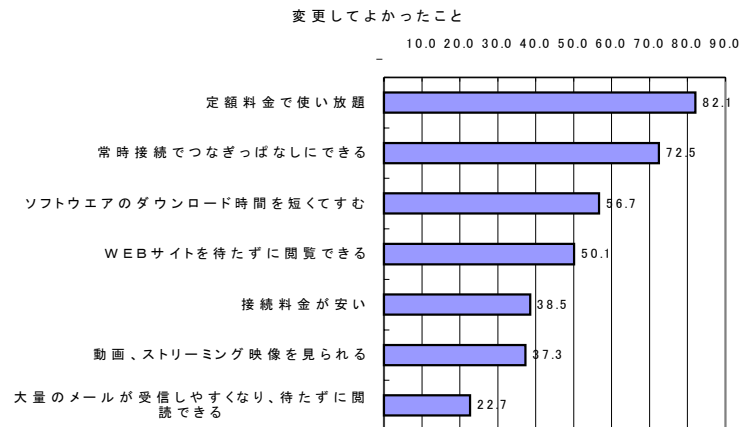
集計対象：10～60代男女 合計9917名（男性6384名 女性3533名）

## ブロードバンドは「ストレスフリー・インターネット」として評価

「ブロードバンドにして良かった」と感じている人は99.7%。

ブロードバンドにして、良かった点は、「定額料金で使い放題：82.1%」がトップ

ブロードバンドに変更して「良かった」と思っている人はほぼ全員の99.7%。その理由のトップは、「定額料金で使い放題：82.1%」で、以下「常時接続でつながりっぱなしに出来る：72.5%」「ソフトウェアのダウンロード時間が短くてすむ：56.7%」「ウェブサイトを待たずに閲覧できる：50.1%」と続きました。ダイヤルアップ環境で料金のことを気にしたり、Webの表示やダウンロードで待たされたりという「ストレス」からの解放が評価されているようです。

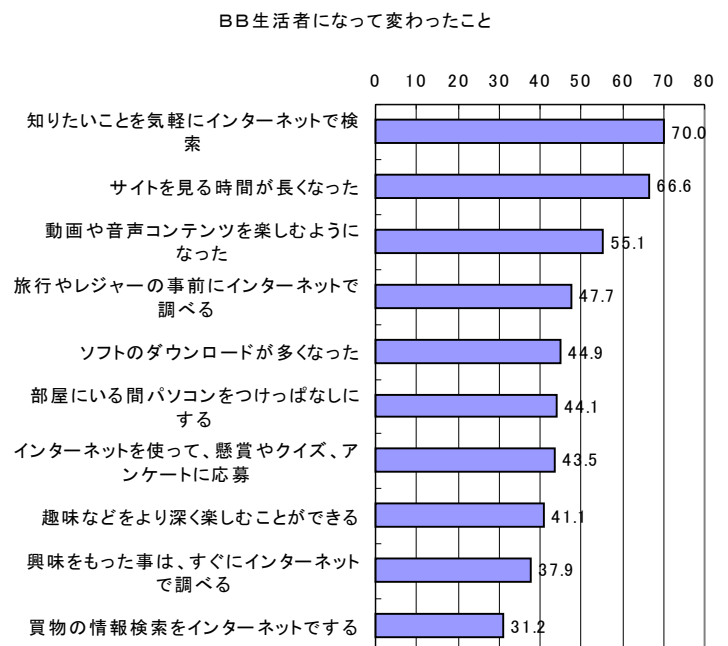


## 「なんでも検索マシン」としての気軽なインターネットの使い方

ブロードバンドにして変わった生活「知りたいことを気軽にインターネットで検索：70.0%」

ブロードバンド生活者のインターネット接続時間は平均1週間に11.3時間。

ブロードバンドになって生じた生活の変化で最も多かったのは「知りたいことはインターネットで気軽に検索するようになった：70.0%」で、続いて「Webサイトを見る時間が長くなった：66.6%」「動画や音声コンテンツを気軽に楽しむようになった：55.1%」「旅行やレジャーの前にインターネットで調べてから出かけるようになった：47.7%」でした。インターネットに関わるストレスから開放された結果、「ちょっとしたことは、すぐにインターネットで検索」という生活行動の変化がブロードバンド生活者に生まれたようです。動画や音声コンテンツなどブロードバンドならではのインターネットの楽



しみも満喫しているようです。

これにともない、インターネットへの接続時間も長くなっており、ブロードバンド生活者のインターネット接続時間は、平均すると1週間に11.3時間でした。アナログダイヤルアップ接続者の場合は1週間の平均接続時間は4.8時間で、ブロードバンドユーザーは約2倍以上も、インターネットに接続していることとなります。

### 増える「ダブル・スクリーン生活者」。広がるインターネットの家電的使い方。

テレビを見ながらその情報をインターネットで検索したことがある人は70.2%。

「ダブル・スクリーン生活者」が増えています。

テレビ視聴時にその関連情報をインターネットで検索したことがある人は70.2%。このうち半数近くの48.8%の人は、「ブロードバンドにしてから検索が増えた」と回答しています。また、この「ながら視聴」を「頻繁に」もしくは「たまに」行う人はブロードバンドユーザーの半数以上の52.9%もあり、テレビの画面とパソコンの画面を平行して楽しんでいる「ダブル・スクリーン生活者」が増えていることがわかりました。

また、ブロードバンドにしてから「部屋にいるときはつけっぱなしにすることが多くなった」とする人も44.1%と半数近くにのぼり、ブロードバンド化でインターネット(につながるパソコン)が家電と同じように使われていることもわかりました。

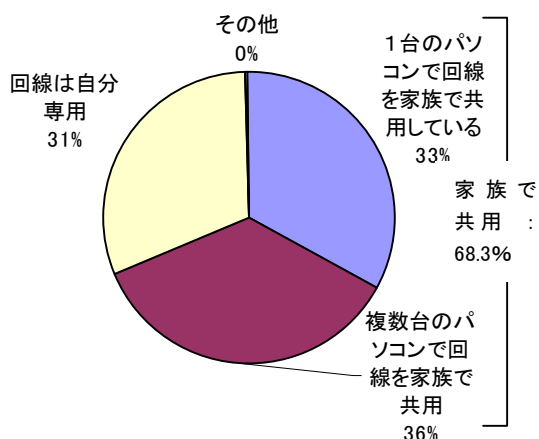
### 家庭内インターネットユーザーの拡大。「リビング・ネット生活者」

家族でインターネット回線を共有している人は、68.3%。

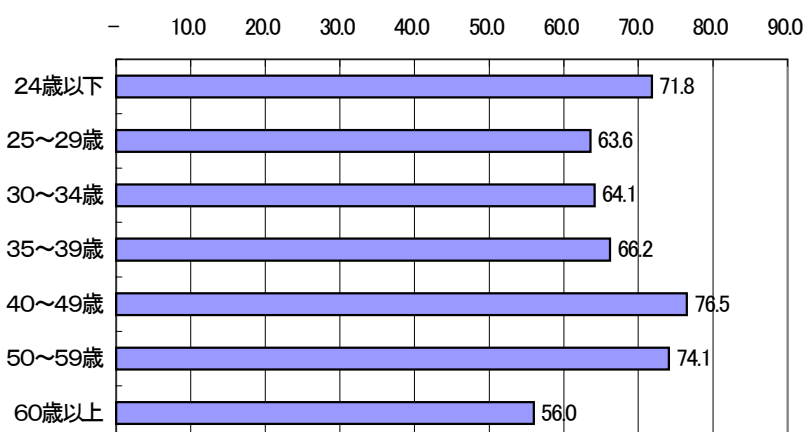
リビングなどにおいたインターネット接続のパソコンを家族で使っているようです。

インターネット回線を家庭内で共有しているブロードバンド生活者はおよそ3分の2にあたる68.3%もいました。特に、40代、50代では70%を超える共有率でした。これは「定額、常時接続」で、子供や中高年夫婦など、家族で気軽に利用できるようになったためと考えられます。ブロードバンドの普及は「インターネット利用者層」の拡大を加速すると考えられます。

家庭での回線の共有状況



家族と回線を共有している人 年齢別 比率(%)



## 短編映画などのインターネットを使った放送型サービスの経験者はまだ多くない。

ブロードバンド型サービスで利用率の高いものは「インターネットメッセンジャー」と「映画予告編」。

「インターネット放送局」や「短編ドラマ」などの放送型は全体的にまだ2割前後と多くありません。

メールよりも気軽にショートメッセージをやりとりできる「インターネットメッセンジャー」を利用したことある人が43.5%、インターネットで「映画の予告編」を見たことがある人が43.3%とそれぞれ約半数が経験していました。一方で、テレビのような動画を楽しむ「インターネット放送局」や「短編ドラマ」を見たことがある人はまだ2割前後であり、ブロードバンドになったからといって必ずしもテレビのような使い方をしているわけではないことがわかりました。

ブロードバンド型サービス利用経験

